

津軽、
茨木、
ふるさとの唄

日本の調べと茨木音頭

民謡 民舞 津軽三味線

【第1部】

●長谷川一義～津軽の響き

津軽三味線：長谷川一義

唄：長谷川勝枝

尺八：木下三郎

太鼓：岩井一記・福原稔

津軽三味線：長谷川一義社中

*

津軽じょんがら六段

津軽じょんがら節

津軽よされ節

津軽あいや節

津軽小原節

ほか

●茨木で創りあげた創作民謡

茨木音頭～茨木童子

田邊朝鳳と茨木市民謡民舞同好連盟

長谷川一義社中



大塚文雄



長谷川一義

【第2部】

●大塚文雄～ふるさとの唄

大塚文雄

長谷川一義社中

*

最上川舟唄

会津磐梯山

山形タント節

新相馬節

ほか

●グランドフィナーレ ～花笠音頭



唄：長谷川勝枝



尺八：木下三郎



太鼓：岩井一記



太鼓：福原稔



三味線：田邊朝鳳



茨木市民謡民舞同好連盟

●長谷川一義社中：竹本亮子 吉原弘美 上村彰洋 森岡史郎 内田高之 ●囃子：西田和枝

2002年2月10日(日) 午後3時開演／午後2時30分開場

茨木市市民会館(ユーアイホール)大ホール

茨木市駅前四丁目7番50号 0726-23-3962

全席指定 1階席＝3,500円 2階席＝2,500円 割引＝24歳以下・65歳以上・障害者及びその介護者は500円引き

●チケットの取り扱い

(財)茨木市文化振興財団0726-25-3055／ローソンチケット06-6387-1900 [Lコード：53614]

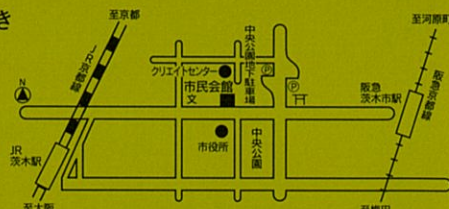
※ローソンでは割引の取り扱いはありません。

●お問い合わせ

(財)茨木市文化振興財団0726-25-3055／月～金、9：00～17：15、土・日・祝日は休業

〒567-0888 茨木市駅前四丁目6番16号クリエイティブセンター1階

●主催＝茨木市・茨木市教育委員会・(財)茨木市文化振興財団



JR茨木駅から東へ、阪急茨木市駅から西へ徒歩8分

大塚文雄（おおつか・ふみお）

昭和15年、山形県に生まれる。

昭和29年、中学2年生の頃から山形県民謡グループ「あずま会」に入会し、本格的に民謡を学ぶ。

昭和34年、地元の高校を卒業後、プロとしての修行のため上京、初代・鈴木正夫の内弟子となる。

昭和36年、(財)日本民謡協会主催による全国大会に出場し、「新相馬節」を歌って優勝。

昭和40年、藤本秀丈に三味線と唄を師事し、三味線の名取「藤本秀頼」となる。

昭和41年、キングレコード専属となり、山梨県民謡「市川文雄／正調粘土節」でデビュー。

昭和48年、イスラエルにおける国際民族芸能祭に日本代表として参加。

昭和52年、郷里山形にて「大塚文雄リサイタル」を開催。その後、(財)日本民謡協会文雅会会主として、民謡の指導、後進の育成にあっている。舞踊歌謡として「祝賀の舞」を発表、後に大ベストセラーとなる。

昭和55年、民謡を歌って20周年、民謡の道ひとすじに歩んできた一つの区切りとして、有楽町「日本劇場」において3日間にわたる初の記念リサイタルを開催。

昭和56年、「サヨナラ日劇フェスティバル」公演として、民謡界を代表してワンマンショーを開催。

昭和58年、民謡歌手として、初の歌舞伎座リサイタルを開催。

昭和62年、民謡生活30周年、キングレコード専属20周年記念公演として2日間にわたり、新橋演舞場にて記念リサイタルを開催し、超満員で好評を得る。

平成2年、日本武道館にて「～おらぁ！山形だよ!!～」公演、超満員で好評を得る。TBS-TV「街かどテレビ1100」で審査を担当。NHK-TV「ふるさと民謡まつり」の司会を岸千恵子と担当する。

平成4年、NHK-TV「ふるさと民謡まつり」の司会を坂本冬美と担当する。10月19日・20日、大井町・きゅりあん小ホールにおいて「大塚文雄・山形ひとり舞台～ふるさと讃歌・最上川～」を開催。

平成5年、第1回「民謡四人の会」原田直之・鎌田英一・藤堂輝明とチャリティショーを開催。

平成6年、細川たかしとNHK「二人のビッグショー～三橋美智也を唄う」で共演。

平成8年、2月3日東京・厚生年金会館大ホールにて記念リサイタルを開催。デビュー30周年記念公演を、東京・山形・大阪で開催する。デビュー30周年記念大塚文雄民謡大全集ベスト100曲を発売。

平成9年、「山形ねんりんピック '97」出演。テレビ東京「年忘れにっぽんのうた」出演。

平成10年、ミャンマージャパンフェスティバル1998、アセアン創立30周年、ミャンマー建国50周年に「ヤンゴン国立劇場」にて日本代表として数々の民謡を唄う。

平成13年、7月22日「大塚文雄ひとすじの道35年」を、芝メルパルクホールでゲストに香西かおりを迎えて開催、超満員で好評を得る。「大塚文雄大全集200曲」を発売。

長谷川一義（はせがわ・かずよし）

青森県出身。

津軽三味線の地元の名人、長谷川竹太郎の長男として生まれ、津軽三味線の手ほどきを、父・竹太郎より受ける。

昭和45年、福士豊勝に師事。

昭和47年、五錦竜二に師事。

昭和50年、大阪の民謡酒場「春日」にて修行。

昭和51年、松竹芸能に所属。レオンレコード所属。

昭和53年、長谷川社中を結成。大阪と青森を拠点に活動。

現在、関西の津軽三味線のトップとして国内だけではなく、海外公演も多く行い活躍中。

高度なテクニック、存在感のある津軽三味線の音色には定評がある。

長谷川社中を率いての独自のコンサートはもちろんのこと、その一方ではあらゆるジャンルの音楽に挑戦、ジャズやロックのミュージシャンとの共演も多い。

最近では、ロックベーシスト天野SHOとともに「和」と「洋」の世界「じょんがら&BLUES」に挑戦、新たなサウンドを見事に創り上げ好評を博すなど、意欲的な活動を展開している。

田邊朝鳳（たなべ・ちょうほう）

昭和5年、新潟県に生まれる。

昭和19年、日本国有鉄道（現JR東日本）に、学徒勤労令により入社。

昭和35年、邦楽に興味を持ち、杵屋佐多由のもとで三味線を修行。

昭和41年、梅若梅朝門下に入会し、民謡（三味線）の端緒となった。

昭和47年、日本国有鉄道（現JR西日本）を退社。茨木日本民謡同好会（茨木こだま会）を創立。以来、地域の文化・福祉・国際交流に貢献。

昭和60年、茨木市の民謡や踊りのグループを結集して、「茨木市民謡民舞同好連盟」を結成。

平成10年、地元茨木で全国規模の「全国盆踊りコンクール大会」を発会。

平成12年、産経民謡大賞「民謡功労章」を受賞。

茨木市民謡民舞同好連盟

昭和60年、茨木市内の民謡、民舞のグループが集まり、田邊朝鳳を会長として発足。

現在、加盟14団体、239名の会員を有し、12月の「チャリティ民謡民舞大会」の開催、「全国盆踊りコンクール大会」の運営、「茨木フェスティバル」や各「敬老会」等への出演のほか、姉妹都市アメリカ・ミネアポリス市や友好都市中国・安慶市への訪問など、市民の文化活動や国際交流活動の振興のため活発な取り組みを展開している。

茨木音頭

茨木市制施行（昭和23年1月）を祝って、吉原正義作詞、仲芳樹作曲、柴田好子振付により発表された。

昭和25年、大阪府主催の民謡大会で第1位となり、また、当時人気の小畑実の歌でレコーディングされるなどして、広く市民に普及していったが、最近では残念ながら踊られる機会もなくなっていた。茨木市民謡民舞同好連盟・田邊朝鳳会長がこの名曲の振りの復刻のため調査に尽力されたが、ついに発見ならず、このたび迫田多喜氏により新しく振り付けていただくこととなったものである。

(財)茨木市文化振興財団第35回公演

日本の調べと茨木音頭～民謡 民舞 津軽三味線

●2002年2月10日(日) 午後3時開演／午後2時30分開場●茨木市市民会館(ユアアイホール)大ホール

●1階席＝3,500円／2階席＝2,500円●24歳以下・65歳以上・障害者及びその介護者は500円引き●全席指定席

●主催＝茨木市・茨木市教育委員会・(財)茨木市文化振興財団